

石クリ通信

1月号

院長 石川 悟

70歳も近くなつて、よいことは少ないのですが、自分ができることとできないことの判断が迅速になったのは、歳の功と言わばきかもしれません。若いうちは何の根拠もないのでできる気がしたり、リスクを知らずに無謀なことをしていました。結果的にうまく行つて自信になったり、若気の至りで終わることもありました。

しなければいけないことと、しなくてもよいことを分けるのもそう簡単ではありません。やらなければならぬことを先送りにして、自分の首を絞めることになったり、今しなくてもよいことに時間を割いてしまつたりすることもあります。時代の流れとともに変えなければならぬこともあり、また逆に変えてはいけないこともあります。

年の初めにあたり、自分の生き方の優先順位を付けようと考えています。まずは健康第一、それから「ポーと生きてんじやないよ。」と言われぬように、やるべきことを取捨選択、新しいことにも少しチャレンジしてみたいと思っています。

袋田の滝

十二月上旬に小学生の時以来に袋田の滝に行ってきました。今回は期間限定で行っているライトアップに行ってみました。迫力のある滝と綺麗なライトがコラボしていてとても幻想的な空間でした。一月下旬までライトアップはやっているのですが防寒対策をしてぜひ行ってみたいと思います。



事務 田所 弓佳

今年の目標

昨年は入社一年目で、自分自身仕事を覚えることで精一杯でした。気持ちに余裕がなく、患者様にも十分な気配りが出来ていなかった事、反省しております。まだまだ覚えなければならぬことは多々ありますが、昨年よりもう少し心にゆとりを持ち、今年は『冷静に』を目標に掲げ（あくまでもなれたらいいなあですが）ひと回り成長出来るよう頑張りたいと思います。

事務 上野 亜希

子年

看護師 太田 小百合

明けましておめでとございます。今年もよろしくお祈り致します。さて今年の子年です。中国の漢書では「子」は繁殖する、生むという意味を持つ「孳」という字からきており、新しい生命が種子の中に萌し始める状態を表していると言われています。中国伝来の十二支はもともと植物が循環する様子を表しているので、十二支の一番目にそのような意味を持つ「子」がくるようです。子年を植物に例えると、新しい生命が種子の中に萌し始める時期で、新しい運気のサイクルの始まる年になると考えられています。「子年は繁栄」何かを始めようか迷っているうちに一年が終わってしまったら、私も何か新しいことに挑戦し始めようと思います。

はや十年目に

事務長 石川 都

未曾有の震災の年に開院した石川クリニックも、今年で十年目に入ります。開院当初に目標として掲げた「人に優しい医療」を皆様に提供できたでしょうか？また地域医療の充実にも少しは貢献できたでしょうか？新年にあたり、スタッフ一同初心に戻つて、これまでを振り返り、問い直し、また新たな歩みを始めたいと思います。

私自身も昨年また、落ち着かず慌ただしく過ごしてしまい、年頭に掲げた「ゆとりある暮らし」はなかなか実現しませんでした。今年こそは、「内は繊細、外は柔軟、人には寛大・・・」という長年の理想に近づけるよう努力しようと思います。そして年間目標は「感謝」。あらゆることを感謝できる一年にしたいと思っています。今年もどうぞよろしくお祈りいたします。

謹賀新年

看護助手 柴田 さち子

日記を書き始めて二年が経ちました。三日坊主の私なのに、自分でも驚きです。三年目に突入しても書き続けます。今年もよろしくお祈り致します。



令和二年

看護師 澤田 彰子

令和元年もあつという間に終わり、令和二年が始まりました。昨年の十年に一度の良い年だったはずなのに、大きな幸せは期待せず、今年も小さな幸せをたくさん見つけたいと思います。まずは年賀状の切手シートが当たりますようにかな？今年もよろしくお祈りします。

バイリンガル子育て記

通信・ウェブ担当 石川 香

パパがイギリス人、ママが日本人の娘を、日英語両方で子育てしている。バイリンガルと言うと聞こえは良いが、只々遠く離れて暮らす主人の家族と繋がりを維持し続けて欲しいの思いだ。何と言つても言語はコミュニケーションの最も基本的な手段だからだ。

私と主人の会話はこのかたずっと英語なので、家では英語外に出た時は日本語として。だが保育園で一日八時間以上日本語で過ごし、さらに主人は平日単身赴任で東京にいるので、実際英語を使う機会は週に金土日のみ、あとは娘の大好きなイギリスのアニメ Peppa Pig (ペッパピッグ) というブタの女の子のお話をほぼ毎日かじりつきで見ているが、出てくる言葉はほぼ日本語となった。たまに茶系の髪の毛を見て英語で「How are you?」と話しかけられても、キョトンとする感じであった。

身体つきが大きく、よく食べ、成長が早かった娘だが、混乱があつたせいか言葉の出でくるのは遅かった。さらに二歳半頃からある日突然吃音が始まり、その後も吃音以外に言葉が出る前に息を大きく吸つたり、叫ぶような声を発したりする仕草があつた。症状にはかなり波があるので、様子を見ていたが、二言語での会話が大きく影響しているのだと思えたので、できるだけ一緒に話を聞く時間を増やしたり、不意に怒つたりしないなど、他の部分でストレスのかからないよう心がけて生活をした。

三歳に近くなると、娘の中で日本語と英語の区別がはつきりとしてきて、私が娘との会話で英語を使うと「ママは日本語でしょ！英語を使わないで！」と言うようになった。さらに日本語が急に上達して、会話が成り立つレベルとなつてきたが、英語はまだそのレベルにまで達せず、パパとお互いのコミュニケーションの難しさと、伝えたいことが言えないフラストレーションが起きていたのが見て取れて、もどかしかった。

とはいえ、イギリスからいここが二週間来日した時には、子供同士で英語で見事に遊んでいて驚かされたし、英語を禁止された私も、主人がいる時の声かけは英語にするよう心がけている。子供はスポンジのように言葉を吸収するとは言いますが、毎日見ていると、大人と同じような文法の間違ひは多々するし、階段を一步一歩上がつて学んでいる様子がよく分かる。まだまだこの先は長い。一緒に頑張っていこうね！